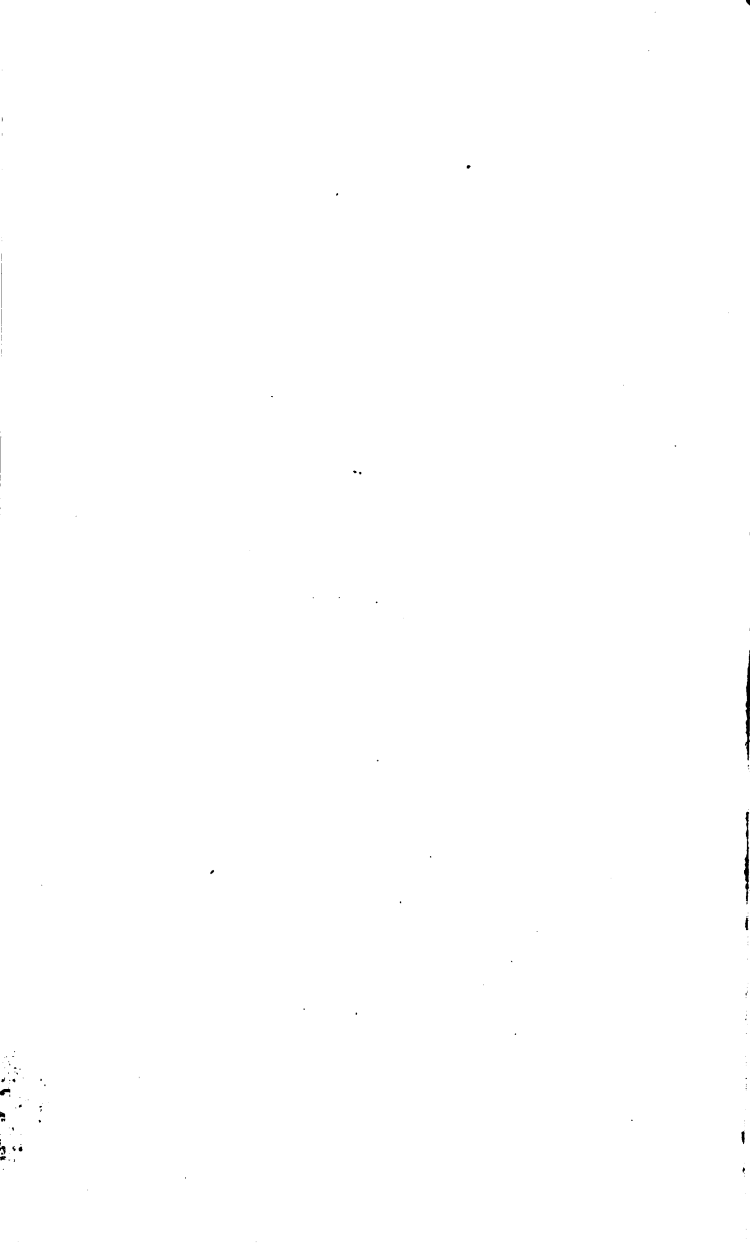


近松淨瑠璃集

下



緒言

近松淨瑠璃百餘種中、本集擇ぶ所總て四十二篇。其内彼の三傑作と稱する國性爺合戰、會我會稽山、雪女五枚羽子板を始めとして、蝶の翼に上皇を驚かし進らせし百人上臈扱は金の冠に小出雲等の膽を冷し、酒呑童子の如き、時代物の粹は更なり、一代の碩儒物徂徠をして嘆賞措く能はざらしめし會根崎心中などの世話物をも、全部卷中に收めたれば、巢林子の大作に於ては殆ど遺憾なかるべし。彼の豊富なる學殖と、非凡なる天才とは、篇中何れの作にもよく發揮せられて、或は英雄豪傑の目覺しき振舞となり、或は市井の男女の纏綿せる情事となり、人物悉く紙面に躍動して、恰も其時に生れて其人に接するが如き感あり。加旗文章極めて簡潔にして、座談

の片言隻語と雖も、寸鐵人を殺さざるなく、讀むに隨つて興趣起り、卷を釋くに忍びざらしむ。すべて時代物は、古淨瑠璃の流れを汲み、史上の材料を採つて之を敷衍したれば、必ず傑人出でて身を挺し、よく萬艱を排して剛敵を摧くといふ、一種豪壯なる結構に出づるを常とすれども、世話物は之に反して、事を當時の出來事に採り、専ら男女の關係を寫したれば、自然情と義との衝突起りて、失望落膽終に死に臨むといふが如き、極めて悲哀なる脚色に落つるを以て、二者の言表もまた相同じからず、一は震旦天竺に迄互りて、多く神儒佛の古典を引き、一は中社會以下の人情を陳べて、俗語俚言鄙語等を用ひ、其解甚だ困難なるものあり。仍て頭註を施すに當りても、或は之を古老に聞き、或は之を古書に索め、力めて自己の判斷を避けん

が爲、殊更に其出典を多く挙げたり。されど識淺くして引證猶十分ならず、且は見誤り聞き損ねたる點もあらん。こは偏へに校者の愧づる所なり。今本書に收めたる十二種の登場年代等を示せば左の如し。

大職冠	(八行本)	正徳三年十一月朔日	六十一歳
生玉心	中	(七行本)	同
同	五年八月朔日	六十三歳	
國性爺合戦	(七行本)	同	年十一月朔日
同	同	同	同
鎚の權三重帷子	(十行本)	享保二年八月廿二日	六十五歳
壽の門松	(七行本)	同	三年正月二日
同	同	同	六十六歳
日本振袖始	(七行本)	同	年二月廿二日
同	同	同	同
曾我會稽山	(七行本)	同	年七月十五日
同	同	同	同

傾城酒呑童子（七行本） 享保三年十月廿五日 六十六歳

博多小女郎波枕（七行本） 同 年十一月廿日 同

心中天の網島（十行本） 同 五年十二月六日 六十八歳

女殺油地獄（十行本） 同 六年七月十五日 六十九歳

心中宵庚申（七行本） 同 七年四月廿六日 七十歳

右篇名の下なる括弧内は校正に用ひし丸本を示したるものにて、寫本は一冊もなく、殊に世話物三種まで、世の珍とする十行本を得たるは、余の竊かに誇とする所なり。其他校訂に就ての用意は一に中巻のそれに同じ。

大正三年三月

校註者 忠 見 慶 造

近松淨瑠璃集 下巻 目録

大 職 冠

一—五

第 二 一—二

第 三 二—一

第 四 三—六

藤照姫道行 三—八

第 五 四—六

嘉平次いくだま生玉しんぎょ心中しんぢゆう
おさが

五—九〇

上之巻 五—五

中之巻 七—二

下之巻 八—四

嘉平次かへいじおさが道行みちゆき 八—四

國性くにせん爺や合戦がっせん

九—一五

第 二 一〇—五

千里せんりが竹たけ 一—四

第 三 一—二〇

第 四 一—三六

梅檀うめだん女にょ道行みちゆき 一—三六

九きゅう仙せん山ざん 一—四〇

第 五 一—四七

鑓やりの權ごん三重さん帷子かたびら

一—五七—九〇

權ごん三さんおさみちゆきる道行 一—七八

下之巻 一—八〇

山崎やまざき衛ゑ壽じゆうの門松かぢまつ
與次兵衛

一—五五—三六

上 卷 一—九五

中 卷 二—〇七

下 卷 二—二〇

與次兵衛吾妻道行 二二〇

日本振袖始 三九一—二八六

第二 二四三

第三 二五五

第四 二七一

素戔鳴尊道行 二七一

第五 二八三

八雲程々 二八三

曾我會稽山 二八七—三五四

第二 三〇一

第三 三一三

第四 三三〇

とら少將道行 三三〇

第五 三四七

傾城酒吞童子 三五五—四二四

第二 三六七

第三 三七七

東寺の西口いばらきがつかむ八百

兩のきんさつ 三七七

第四五 三九四

植籠の大江山榮華は大格子の唐織 三九四

博多小女郎波枕 四四五—四四六

上之卷 四一五

長者經 四二五

中之卷 四三二

下之卷 四四〇

惣七小女郎道行 四四〇

かみや治兵衛しんぞらてんの網島 四四七—四八〇

中之卷 四五九

下之卷 四七〇

名こりの橋づくし 四七四

女殺油地獄 をんなころしあぶらじごく

四八一—五三四

中之卷 四九二

下之卷 五〇三

心中宵庚申 しんぢゆうよひかうしん

五三五—五六〇

上之卷 五二五

中之卷 五三六

下之卷 五四六

道行思ひの短夜 みちゆきおもひみじかよ 五五五

近松浄瑠璃集下卷索引

五六一—六〇三

